

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成17年10月12日(水)授業2
学級 2年1組 男子17名女子17名 計34名
場所 2年1組教室
授業者 教諭 高橋 美樹子

1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう「サンゴの海の生きものたち」(光村図書)

2 単元について

(1) 教材観

第2学年における「C読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」ことである。第1学年及び第2学年の読みの力は、書かれていることの大体をとらえることが基礎となる。そのためには、まず順序に従って内容を押さえたり、場面の様子に気付きながら読み取ったりすることが必要である。これを受けて、本単元の目標を「海の生き物たちがどのようにかかわり合っているのかの様子を想像しながら読み取り、共生の仕組みの不思議に興味をもつとともにいろいろな海の生き物について調べ、生き物カードを作って交流することができる。」と設定した。

本教材の文章に出てくるサンゴの海にすむ生き物を自然の中で目にしたことのある児童も少数であると思われる。しかし、本教材で扱われている魚やイソギンチャクを、水族館や図鑑などで見たことのある児童はいるはずである。また、近年アニメや映画で海に住む生き物たちに親しみをもっている児童も多い。本教材は、児童の日常から離れた世界のことであるが、多くの児童が親しみをもつ可能性は高い。

本教材は、これまでに読んできた説明文に比べ、説明がやや複雑になっている。説明に登場する生き物の数も多い。生き物相互の関係も、「共生」という内容的にやや難解な要素を含んでいる。その理解をより容易にするために、「初め」の記述が役に立つ。第1段落の「たがいに、やくに立つようにかかわり合っ」である。それが典型的な共生関係(相利共生)である。その記述に着目できれば、中心となる生き物と、その関係性は理解しやすい。そこで、文章に出てくる生き物のうちで、何と何が主要なものなのかを見分けることが必要となる。そのために「初め・中・終わり」の中の「初め」の記述を丁寧に読むことで、読み進める際の方向づけができると思う。

イソギンチャクとクマノミ、ホンソメワケベラと大きな魚がお互いに守り合ったり、助け合ったりしながら生きている共生の世界が生き物の中にあることを知り、知識を獲得したり、読解力をつけたりするだけでなく、読むことを通して、心情的にも豊かになる教材である。

(2) 児童観

児童の『言葉への関心』は、高い。説明文教材では、第2学年になって「たんぼぼのちえ」を学習した。時間的経過による植物の種の保存の知恵を読み進め、未知のことを知る喜びを味わってきている。分からない言葉は、国語辞典を使って自分で調べてみるという学習にも取り組み、調べる楽しさも味わっている。

また、チャレンジ学習として植物の知恵図鑑を作る活動を通して、様子とそのわけについてモデル学習で学んだことを生かして自分で読み取る、図鑑にまとめることの楽しさを知り、意欲的に取り組むことができた。説明文を読む楽しさを感じている児童もいる。しかし、『豊かに読み取る力』は、個人差が大きい。まだ読むことだけで精一杯の児童もいれば、目的意識をもって一人で読み進んでいくことのできる児童もいる。特にチャレンジ学習での作品等はその差が歴然となる。自分の力で読み取る、自分の言葉でまとめることに苦手意識をもっている児童もいる。

確実に説明文を読む方法を身につけさせることはもちろん大切であるが、説明文を読むことによって予想外の新しい発見をする喜びや楽しさを知り、自ら進んで説明文を読もうとする児童を育てたい。

(3) 指導観

指導にあたっては、海の生き物たちの暮らしに興味をもたせながら、1つ1つの語句や表現に注意してサイドラインを引いたり、ワークシートに書き込んだりしながら読み取る中で、生き物の生きるための知恵について主体的に読む方法を身につけさせたい。また、叙述に即して正確に読むために、写真の活用により想像を広げたり、動作化を取り入れたりしていく。さらに、読み取りをもとにそれぞれの生き物になりきって手紙を書かせることにより、自分の生きるための知恵が相手のためにもなっているという自然の世界の共生の不思議さやすばらしさを味わわせるようにしたい。

「サンゴの海の生きものたち」の読み取りの学習を行った後、児童一人一人が生き物カードを作り、みんなのカードを合わせて『海の生きもの図鑑』を作るチャレンジ学習を通して、新たな発見や共感の喜びを体験させたい。チャレンジ学習の読み取りには個人差が大きく、そのために、海の生き物の体の仕組み等に関することが書かれた本と共生について書かれた本を教師が予め集め、教室の図書コーナーに置いていつでも読めるようにしておくとともに、子どもの読み取りの実態に応じて体の仕組みについてのカードを作るか共生についてのカードを作るかの助言をしていきたい。

3 単元の目標と評価規準

	目 標	評価規準
国語への関心・意欲・態度	海の生きものについての読み物に興味をもち、図書館などの本から図鑑に必要な資料を探して読もうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「サンゴの海の生きものたち」を共生の仕組みの不思議に興味をもち、進んで読もうとしている。 ・他の海の生き物たちに興味をもち、図鑑作りのために進んで調べようとしている。
読むこと的能力	<p>「サンゴの海の生きものたち」が互いに役立っていることを、事柄の順序を考えながら読み取ることができる。</p> <p>登場した生き物になりきってお礼の手紙を書き、かかわり合いについて気付くことができる。</p> <p>語や文のまとめ、内容、言葉の響きなどについて考えながら声に出して読むことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物同士のかかわり合いについて、説明の順序に気をつけて内容の大体を読んでいる。 ・生き物になりきってお礼の手紙を書き、かかわり合いについて気付いている。 ・4つの意味段落と、かかわり合いをもっている生き物に気をつけ、声に出して読んでいる。
書くこと的能力	図書館などの本を読んで、「生きものカード」を作ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で探した海の生き物の資料から必要な事柄を見つけ、自分の言葉で「生きものカード」に表している。
言語事項	片仮名を読んだり書いたりし、片仮名で書く語を文や文章の中で使うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・片仮名で書く語がどのような種類の語であるかに気付きながら正しく読んだり書いたりしている。

4 単元の指導・評価計画（10時間扱い）

段 階	時 間	目 標	・主 な 学 習 活 動 ...学習課題 ...主な支援の手立て	評価規準 【評価の観点】 (評価方法)	具体の評価規準		努力を要すると判断された児童への具体的な手立て
					A:十分満足できると判断する視点	B:概ね満足できると判断する視点	
とらえらる	1 ・ 2	「サンゴの海の生きものたち」を読み、自分の知らない世界に興味をもつことができる。	<p>みんなで「海の生きものずかん」をつくるためにこれからどんな生き物をしていくかを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て海の中の想像を膨らませる。 ・範読を聞き、音読をして初発の感想をまとめる。 ・学習のめあてを確認する。 <p>驚いたことや不思議だったこと、分からなかったことなどを自由に発表できるようにする。</p>	<p>写真から想像を広げ、海の生き物について興味をもって読もうとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】(発言・観察・ノート・振り返りカード)</p>	<p>興味をもって文章を読み、文章の内容の大体をとらえながら、驚いたことや不思議に思ったことなどをもとに初発の感想を書こうとしている。</p>	<p>興味をもって文章を読み、驚いたことや不思議に思ったことなどをもとに初発の感想を書こうとしている。</p>	<p>友達の発表を参考に、どんなことを書いたらいいかを考えさせる。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> ・出てきた生き物を確認する。 ・文章の構成をおおまかにとらえる。 ・文脈の流れに沿って新出漢字や片仮名、語句の意味の学習をする。 <p>出てきた生き物にサイドラインを引きながら読むようにさせる。</p> <p>片仮名で表記する言葉に触れ、正しく読んだり書いたりするようにさせる。</p>	<p>出てきた生き物に気をつけながら、文章全体の構成をおおまかにつかんでいる。</p> <p>【読むこと】</p> <p>【言語事項】(発表・観察・ノート)</p>	<p>「サンゴの海の生きものたち」に出てきた生き物を確認し、4つの意味段落に気付いている。</p>	<p>サイドラインを引きながら、「サンゴの海の生きものたち」に出てきた生き物を確認しようとしている。</p>	

た し か め る ・ ふ か め る	3 ・ 4	イソギン チャクと クマノミ のかかわ り合いを 読み取る ことができ る。	イソギンチャクとクマノミはどんな かかわり合いをしているのだろう。 ・イソギンチャクとクマノミの体の仕組 みを読み取る。 ・イソギンチャクとクマノミがそれぞれ していることをまとめる。 イソギンチャクにとっていいこと、ク マノミにとっていいことをそれぞれ 考えさせる。	イソギンチャクとクマノミの 体の仕組みや互 いにしているこ とを叙述に即し て正確に読み取 っている。 【読むこと】(発 言・ワークシート)	イソギンチャクとクマノ ミの体の仕組 みや、互いに していること の大体を読み 取り、自分な りの感想をも ってる。	イソギンチャクとクマノ ミの体の仕組 みや、互いに していること の大体を読み 取っている。	イソギン チャクとク マノミの様 子や行動に ついて書か れている部 分にサイド ラインを引 かせる。
			・前時のイソギンチャクとクマノミがし ていることについて振り返る。 ・イソギンチャクとクマノミになってお 礼の手紙を書く。 ・手紙を発表し合う。 ・イソギンチャクとクマノミのかかわり 合いについてまとめる。 お手紙を書くことにより、イソギンチ ャクとクマノミが互いに守り合っ ている関係であることに気付かせる。	イソギンチャクとクマノミの 立場になってお 礼の手紙を書 き、互いに守り 合うというかか わり合いを読み 取っている。【読 むこと】(観察・発 言・ワークシート)	お礼の手紙 を書き、イソ ギンチャクと クマノミのか かわり合いを 読み取り、守 り合うという 関係を理解し ている。	お礼の手紙 を書き、イソ ギンチャクと クマノミのか かわり合いを 読み取ってい る。	文章に即 して動作化 させ、内容 の読み取り をしっかり させる。
ま と め る ・ ひ ろ げ る	5 ・ 6	ホンソメ ワケベラ と大きな 魚のかか わり合い を読み取 ることが できる。	ホンソメワケベラと大きな魚はどん なかわり合いをしているのだろう。 ・ホンソメワケベラの体の特徴を読み取 る。 ・ホンソメワケベラと大きな魚がそれぞ れしていることをまとめる。 ・大きな魚になってホンソメワケベラに お礼の手紙を書く。 ホンソメワケベラにとっていいこと、 大きな魚にとっていいことをそれぞ れ考えさせる。	ホンソメワケ ベラの体の特徴 とホンソメワケ ベラと大きな魚 が互いにしてい ることを叙述に 即して正確に読 み取っている。 【読むこと】(観 察・ワークシート)	ホンソメワケ ベラの体の特 徴やホンソメワ ケベラと大きな 魚が互いにしてい ることを叙述に 即して正確に読 み取り、自分 なりの感想をも っている。	ホンソメワケ ベラの体の特 徴やホンソメワ ケベラと大きな 魚が互いにしてい ることを叙述に 即して正確に読 み取っている。	ホンソメ ワケベラと 大きな魚の 様子や行動 について書 かれている 部分にサイ ドラインを 引かせる。
			・前時のホンソメワケベラと大きな魚が していること、大きな魚の手紙の内容 ついて振り返る。 ・ホンソメワケベラになって手紙の返事 を考える。 ・ホンソメワケベラと大きな魚のかかわ り合いについてまとめる。 返事を書くことにより、ホンソメワケ ベラと大きな魚が互いに助け合っ ている関係であることに気付かせる。	ホンソメワケ ベラと大きな魚 のかかわり合い を基にお礼の手 紙を書くことに よって、共生の 関係を読み取っ ている。【読むこ と】(観察・発言・ ワークシート)	お礼の手紙 を書き、ホン ソメワケベラ と大きな魚の かかわり合い を読み取り、 共生関係につ いて考えてい る。	お礼の手紙 を書き、ホン ソメワケベラ と大きな魚の かかわり合い を読み取って いる。	相手の魚 がしている ことは何か を見つけさ せるように する。
ま と め る ・ ひ ろ げ る チャ	7	生き物カ ードにま とめたい 海の生き 物の本を 選ぶこと ができる。	みんなで「海の生きものずかん」をつ くろう。 ・図書館などから海の生き物について書 かれている本を探す。 ・カードの書き方を知る。 本を選ぶにあたっては、漢字に仮名が 振ってあるものや内容が平易で2年 生でも読めるものを教師側で準備し 児童が常時読めるようにコーナーを 設置しておくようにする。	自分が『生き ものカード』に まとめたい海の 生き物を見つけ ようとしてい る。 【関心・意欲・ 態度】(発言・観 察・振り返りカ ード)	海の生き物 に興味をも ち、進んでい ろいろな本を 読みながら自 分カードに まとめたい海 の生き物を見 つけようとし ている。	いろいろな 本を読みなが ら自分がカー ドにまとめたい 海の生き物 を見つけよう としている。	内容の読 み取りが平 易な本を数 冊教師側が 用意し、そ の中から選 ばせるよう にする。

8 9 本 時 1 / 2 チャ	本を読んで ・初めて知ったことやびっくりしたことなどをまとめることができる。	・教科書に出てきた海の生き物について振り返る。 ・カードにまとめる際に必要な事柄を確認する。 ・同じ生き物をカードにまとめる児童同士で資料を読み合い、読み取ったことを文や絵にまとめ、工夫してカードに書く。 図鑑に書かれている言葉をそのまま写すのではなく、友達に教える言葉で書くように指導する。	図書を読んで 生き物の特徴や秘密などをとらえ、伝えたい事柄を分かりやすくまとめている。 【書くこと】 (観察・発言・ワークシート)	生き物の特徴や秘密、共生などをとらえ、伝えたい事柄を分かりやすく生き物カードにまとめている。	生き物の特徴や秘密などをとらえ、伝えたい事柄を分かりやすく生き物カードにまとめている。	教師とともに図書を読みながら、はじめて知ったことや不思議だなと思ったことにサイドラインを引かせ、カードにまとめさせる。
10 チャ	出来上がった「海の生き物図鑑」を楽しみながら読み合うことができる。	「海の生きものずかん」を楽しもう。 ・出来上がった「海の生き物図鑑」を読む。 ・感想を発表し合う。 初めて知ったことや驚いたことなどをコメントカードに書かせ発表の手がかりにさせる。	出来上がった「海の生き物図鑑」を楽しみながら読むとしている。【関心・意欲・態度】(観察・コメントカード・振り返りカード)	出来上がった「海の生き物図鑑」を楽しみながら読み、友達の紹介カードのよさに気づいている。	出来上がった「海の生き物図鑑」を楽しみながら読むとしている。	教師とともに出来上がった「海の生き物図鑑」を楽しみながら読むようにさせる。

チャ...チャレンジ学習

5 本時の学習指導(8/10)(チャレンジ学習)

(1) 目標

資料から初めて知ったことやびっくりしたことなどを読み取ることにより、『生き物カード』にまとめることができる。

(2) 基礎・基本とのかかわり

「サンゴの海の生きものたち」のモデル学習では、写真を手がかりにして想像を広げたり、動作化を取り入れることにより叙述に即した正確な読み取りをしたりと大事なところに気をつけて読むことを通して、共生の仕組みや海の中の生き物の不思議に興味をもたせることを意識して指導にあたってきた。そのモデル学習を基に、本単元のチャレンジ学習のねらいは、次の3点である。

いろいろな資料の中から、目的意識をもって必要な情報だけを選択する力を養う。

友達に海の中の生き物の不思議さや初めて知ったことが伝わるように事柄の順序を考えながら、楽しく書く活動ができる。

友達に分かりやすく話したり、大切な事を落とさずに聞いたりすることができるようにする。

(3) 本時の指導にあたって

前時まで、自分が『生きものカード』にまとめたい海の生き物の本を探し出している。本時は、「サンゴの海の生きものたち」の学習を生かし、自分が本から読み取ったことをカードにまとめる活動を行う。一人一人の『生きものカード』をまとめ、1組の「海の生き物図鑑」を作るという見通しをもたせることにより、学習への意欲付けを図りたい。図書に書かれている言葉をそのまま写すのではなく、自分の言葉で友達に伝えることができるように書かせたい。そのために国語辞典を引く活動を取り入れる児童もいるであろう。

読み取りには個人差が大きい。また、初めて読む文章なので、できるだけ文章を読む機会を増やすことと互いに協力し合って読み取りの力を高めることをねらってペア学習を取り入れた。生きものの体の仕組みや共生の不思議などの大事なところに気をつけながら、本を読んで初めて知ったことやびっくりしたことが友達によく分かるように『生き物カード』に表現できるようにさせたい。

(4) 展開

段階	学習内容・学習活動	支援の手立てと評価の観点	準備・資料								
とら える 5分	1 学習課題を確認する。 みんなで「海の生きものずかん」をつくらう。	・前時までの学習を想起させ、学習課題を把握させる。 ・できた図鑑は、図書館に置いてみんなに見てもらうことを伝え、相手意識を高める。	・前時までの紙板書								
ふ か め る 3 5 分	2 課題解決のための見通しをもち、本時の言語活動を確認する。 ・音読により、前時までの学習を想起し、海の生き物図鑑を作るという言語活動に意欲をもつ。 ・「サンゴの海の生きものたち」の読み取りをもとに、カードへのまとめ方を確認する。 3 自分の力で学習課題の解決を行う。 ・同じ海の生きものをカードにまとめようとしている子ども同士でペアを組み、互いに文章の読み合いをする。 ・初めて知ったことやびっくりしたことなどを基に、『生きものカード』にまとめる。 ・分からない用語については、国語辞典を引いたり、教師に聞いたりしながら自分の言葉で表現する。 ・早くできた子は、挿絵を描く。 〔評価規準 Bの例〕 イソギンチャク イソギンチャクは、どくのはりがあるしょく手で小さな魚をつかまえて食べます。	・ホンソメワケベラと大きな魚の共生についてまとめた文章とイソギンチャクの体の仕組みをまとめた文章の音読により、図鑑を作るという言語活動に意欲をもたせる。 ・教材文の最後の文から生き物の生きる知恵についてまとめられるようにさせる。 ・前時に選んだ本を事前に印刷したものを用意し、生き物の特徴や生きるための知恵などで初めて知ったことやびっくりしたことなどにサイドラインを引きながら読むようにさせる。 【評価規準（書くこと）】 ・生き物の特徴や秘密などをとらえながら、文章を読んでいる。 ・伝えたい事柄を分かりやすく生き物カードにまとめている。 (観察・生き物カード) 《具体的評価規準》 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">具体的評価規準</th> <th rowspan="2">努力を要すると判断された児童への具体的な手立て</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生き物の特徴や秘密、共生などをとらえ、伝えたい事柄を分かりやすく生き物カードにまとめている。</td> <td>生き物の特徴や秘密などをとらえ、伝えたい事柄を分かりやすく生き物カードにまとめている。</td> <td>教師と共に図書を読みながら、初めて知ったことや不思議だと思ったことなどにサイドラインを引かせ、カードにまとめさせる。</td> </tr> </tbody> </table>	具体的評価規準		努力を要すると判断された児童への具体的な手立て	A	B	生き物の特徴や秘密、共生などをとらえ、伝えたい事柄を分かりやすく生き物カードにまとめている。	生き物の特徴や秘密などをとらえ、伝えたい事柄を分かりやすく生き物カードにまとめている。	教師と共に図書を読みながら、初めて知ったことや不思議だと思ったことなどにサイドラインを引かせ、カードにまとめさせる。	・紙板書 ・「生き物カード」の用紙 ・海の生き物の本
具体的評価規準		努力を要すると判断された児童への具体的な手立て									
A	B										
生き物の特徴や秘密、共生などをとらえ、伝えたい事柄を分かりやすく生き物カードにまとめている。	生き物の特徴や秘密などをとらえ、伝えたい事柄を分かりやすく生き物カードにまとめている。	教師と共に図書を読みながら、初めて知ったことや不思議だと思ったことなどにサイドラインを引かせ、カードにまとめさせる。									
ひろ げる 5分	4 カードにまとめたことを基に話し合う。 ・本時でできたところまでの発表をする。 ・友達のカードの内容のよいところを見つける。 5 本時の自己評価を行う。 ・自分の学習を振り返り、次時の学習への意欲をもつ。	・本時の学習について振り返らせ、自己評価させる。 ・次時は、カードを完成させ、みんなで読み合うことを確認する。	・プロジェクター ・自己評価カード								

(5) 板書計画

<p>サンゴの海の生きものたち</p> <p>もとかわ たつお</p>	
<p>みんなで「海の生きものずかん」をつくるよ。</p>	
<p>・かかわり合ってくらしている生きもの</p>	
<p>ホンソメワケベラと 大きな魚の かかわり合い</p>	
<p>・はじめて知ったこと ・ふしぎだなと思った生きもの</p>	
<p>インギンチャクの体の仕組み</p>	
<p>カードの書き方</p>	
<p>生き物の名前</p>	<p>・かかわり合い ・はじめて知ったこと ・ふしぎだなと思ったこと</p>
<p>絵</p>	